

# 公益財団法人南砺幸せ未来基金

## 令和3年度 事業報告書

### I 概要と主な成果

令和3年度は、昨年度に引き続き、豊かで特色ある「地域資源」を活かして地域課題の解決を目指す、多様な主体及びその取組みを市民自らが支える仕組みを構築すること、持続可能な循環共生型の社会づくりに貢献するため「未来資本」を創出することを目指し活動に取り組んだ。

法人設立の4ヵ年目にあたり、助成事業の拡充および財団運営の基盤構築に向けて以下の4点を重点事項として位置づけ取り組みを進めた。

#### 1 普及啓発と運用資金の調達

安定した財団運営を行うために財団の設立趣旨や運用目的などを広く普及啓発を行うことで市民の理解度を高めるとともに運用資金となる寄付金や遺贈金の調達につなげるために次の活動を実施した。

##### 【普及啓発】

- ・助成実行団体による活動報告会（5月15日）を開催。コロナ禍のため会場とオンラインでの参加ができるよう工夫した。発表団体6団体、参加者35名（会場・オンライン含む）
- ・当財団役員（評議員、理事）を中心とした法人企業に、これまでの事業内容の報告や、今後の事業展望についての説明と要望等のヒアリングを行った。
- ・事業報告書『アニュアルレポート（2020～2021）』の発行
- ・会報（ニュースレターvol. 2）の発行
- ・ホームページのほか、Facebook、Twitterによる情報発信
- ・マスコミ各社に対するプレスリリースの発信
- ・地域づくり協議会連合会の定例会や意見交換会において、当財団の取組みを紹介。
- ・コミュニティメディカルデザイナー養成講座で当財団の取組みを紹介。
- ・守り育てる会で当財団の取組みを紹介。
- ・「デジタル南砺の輪」定例ゲストスピーカーとして当財団の取組みを紹介。
- ・広域議員勉強会における講師として当財団の取組みを紹介。

##### 【運用資金の調達】（寄付金・遺贈）資金調達の仕組みづくり

寄付金の呼びかけを行い、一般寄付（使途の定めのない寄附金）10件、825,852円、サポーター一会員年会費（4件、400,000円）の実績。寄付付き商品や、事業収入の一部からの寄付等、法人企業のヒアリングから寄付の仕組み提案を行った。

- ・定期的な寄付の仕組みを検討し「サポーター会員制度（法人・個人）」を創設し、令和4年度からの本格運用を目指す。
- ・遺贈に関する取り組みとしては、一般社団法人全国レガシーギフト協会（<https://izoukifu.jp/>）に、正会員として加盟し「遺贈寄付の相談窓口」となった。

#### 2 財団運営のノウハウの蓄積

財団運営のための組織や財務について調査研究し、適正な運用を図る。また、融資や投資など基金運用における手法を研究することで新たな基金運用に備える。

##### 【会議運営】

- ・運営体制の基盤強化を図るために、定期的に財団内で協議を行った。年度内に46回の事務局会議、4回の業務執行理事会を実施している。

#### 【組織基盤強化】

- ・一般財団法人非営利組織評価センター (<https://jcne.or.jp/>) のベーシックガバナンスチェック（第三者評価）を受け、情報開示に積極的な透明性の高い組織運営に努めている。
- ・昨年度に引き続き、一般社団法人全国コミュニティ財団協会との交流および研修会に参加し、コミュニティ財団として知識や他団体とのつながりの構築に努めている。

#### 【電子地域通貨の各種勉強会の実施】

- ・地域内資金循環手法である「電子地域通貨」の調査・研究を南砺市の事業を受託し、調査・研究とともに、普及啓発活動に寄与する活動を実施した。アンケート等より地域通貨という仕組み（手法）を導入することによって地域を意識し、地域内への消費行動への動機付けを行うことが可能となることがわかった反面、消費者にとっては、利便性やメリットが手法を広める強い要因となることの確認も行われた。
- ・市民フォーラムを3回（4月、7月、3月）開催。
- ・弊財団で開発した「地域通貨体験ゲーム」を2団体から依頼を受け、実施した。

#### 【まちづくり事業の情報収集】

- ・案件発掘・案件組成のために、まちづくり事業の情報収集に積極的に取り組んだ。後述する休眠預金等活用事業の助成に関するものや、頑張る人・地域応援事業助成に関することなど、助成事業に関することを中心に相談を受け（実績 181 件）情報収集や分析を行った。

#### 【休眠預金等活用事業に係る連携先コミュニティ財団との意見交換】

- ・2021 年度休眠預金等活用事業において「公益財団法人東近江三方よし基金（滋賀県東近江市 理事長 池永 肇恵）」、「公益財団法人うんなんコミュニティ財団（島根県雲南市 理事長 郷原 剛志）」とコンソーシアムを組み設立した「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」では、三つの資金分配団体がコンソーシアム内で「知の移転」をすすめるために連携をとりながら意見交換および学びあいを積極的に行っている。

### 3 事務局体制の整備と充実

財団事務局の事務事業を細分化し業務分担することで的確な組織運営を行う。（一社）なんと未来支援センターとの連携により資金、ノウハウ、ネットワークでの支援体制を整える。

#### 【事務局体制強化】

- ・4月より事務局員2名体制、7月より事務局長が加わり3名体制となり、事務局体制を強化した。一方で、助成事業「頑張る人・地域応援事業（春・秋2回）」において公募・審査・採択、「休眠預金等活用事業（2020年度、2021年度）」において公募・審査・採択・伴走支援等の事業実施ため、事務局業務量が増加している。そのため、管理体制面においては人的資源の不足は続いている。組織基盤強化のための体制整備及び構築に向けてさらなる検討が必要である。

#### 【プログラムオフィサーの育成】

- ・休眠預金等活用事業の研修プログラムの受講。
- ・「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」における学び合い（定例ミーティングの参加、採択実行団体への視察等）を通じて、知見を共有し、プログラムオフィサーとしての育成につなげている。
- ・准認定ファンドレイザー研修 (<https://jfra.jp/cfr/what>) 事務局員1名が受講。

### 【なんと未来支援センターとの連携】

なんと未来支援センターを通じて地域づくり協議会連合会定例会に参加し、財団の情報発信を行っている。両団体として情報共有をおこなっているもののまだ限定的なものであるため、現状では、まちづくりに関する相談をワンストップサービスとして受ける体制とはなっていない。地域の困りごとの解決や、ソーシャル・コミュニティビジネスの展開をすすめるために、更なる情報共有体制の構築を目指していくことが重要である。

## 4 基金活用事業の募集と支援の研究

基金運用に伴う支援事業の募集を行うことにより、まちづくり事業を支援し、地域の諸課題の解決に寄与していく。地域資源を活用した取り組みを応援する事業（頑張る人・地域応援事業）、特定の事業に関する助成プログラムの検討（目的別基金：森林に関するもの、移動に関するもの）及び休眠預金等活用事業の助成事業を実施した。

### 【頑張る人・地域応援事業】

地域資源を活かした取り組みであり、当財団が掲げる7つのテーマに即した事業を募集するもの。毎年度5月、10月に公募を実施し、1回あたり助成総額90万円で1団体あたり上限30万円。助成期間は1年を基本とし、最長3年までとしている。令和3年度は第3回、第4回を実施した。採択団体に対しては、随時ヒアリングを行い、事業の進捗確認や相談等を聴くなど、実行団体とのつながりを持てるよう心がけている。

#### ◆公募の事業テーマ

- ・暮らしを支える事業
- ・森里川海のつながりを保全する事業
- ・生業・起業・ものづくりを支える事業
- ・地域の食と農業を支える事業
- ・子ども・若者を支える事業
- ・再生可能エネルギーを支える事業
- ・地域の歴史・土徳文化を支える事業

#### ◆第3回頑張る人・地域応援事業

- ・公募期間 令和3年5月1日～5月31日
- ・採択団体 4団体（応募5団体）
- ・採択団体一覧

団体名	事業概要	助成額 (総事業費)
(一社) Casa つむぐプロジェクト南砺	①交流人口・関係人口対策 ②麻布の普及 ③農家のB品活用 ④大学との連携と事業評価 ⑤地域再生のシナリオ作成	300,000円 (472,000円)
東太美地域づくり協議会	地域づくり協議会と榑福光タクシーが送迎契約を結び送迎希望の高齢者サロン参加者の送迎を行う。	150,000円 (288,000円)
NPO 法人なんと元気	自力で人に頼ることのできる人と自力で声をあげられない人、双方に声をかけられる仕組みづくり。事業実施者間での事例検討会	150,000円 (350,000円)

(一社) ジソウラボ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動を困難に感じている高齢者を対象として自動運転シニアカーを利用した、自動運転デジタル技術の実証実験</li> <li>・シェアリングを行うための配車アプリの試作</li> </ul>	300,000 円 (900,000 円)
合計助成額		900,000 円

- ・審査選考委員会 令和3年6月30日(木) 14:00～  
アスモ2F大会議室
- ・審査選考委員 松本久介(理事・業務執行理事) \*委員長  
川森純一(理事・業務執行理事)  
能登貴史(理事・業務執行理事)  
中山明美(理事・業務執行理事)  
森岡 豊(外部委員 北陸銀行福光支店長兼城端支店長)

◆第4回頑張る人・地域応援事業

- ・公募期間 令和3年10月1日～10月31日
- ・採択団体 3団体(応募4団体)
- ・採択団体一覧

団体名	事業概要	助成額 (総事業費)
池川散歩みちグループ	グループが9年間かけて培ってきた野外の活動に加え、不登校児の活動拠点・交流の場づくり。城端地内での福祉交流館としての活動の基礎をつくる。	100,000 円 (168,000 円)
石井 和	学生に対してトークイベントを行い、職業選択の自由度を実感してもらう。 閑乗寺公園を会場として絵を通したワークショップ等を行い南砺市の魅力発信を行う。	300,000 円 (515,000 円)
井波日本遺産推進協議会	小学校児童を募集して、屋台の子供踊りを伝承する。	300,000 円 (540,000 円)
合計助成額		700,000 円

- ・審査選考委員会 令和3年11月15日(月) 13:30～  
アスモ2F大会議室
- ・審査選考委員 松本久介(理事・業務執行理事) \*委員長  
川森純一(理事・業務執行理事)  
能登貴史(理事・業務執行理事)  
中山明美(理事・業務執行理事)  
森岡 豊(外部委員 北陸銀行福光支店長兼城端支店長)

選考委員会は、第3回と第4回とも申請者のプレゼンテーション10分、質疑10分、審査表の記入10分(1団体30分)にて行った。

## 【休眠預金等活用事業】

○「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成 28 年度法律第 101 号）」に基づき 2009 年 1 月 1 日以降の取引から 10 年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度。

（公財）南砺幸せ未来基金は（公財）うんなんコミュニティ財団、（公財）東近江三方よし基金とコンソーシアムを組んで、休眠預金等活用事業の指定活用団体である（一社）日本民間公益活動連携機構が公募した資金分配団体に採択された。

（公財）南砺幸せ未来基金が資金分配団体として、南砺市内で取組みを実施する実行団体を募集し助成するもの。

昨年度のテーマであった「孤立者支援」から更に「日常の暮らしの中で生きづらさを感じる社会的困難者」を支援する。このため社会的困難者を支援する（スタートアップ、ステップアップしたい）団体を見出し、「1）社会的困難者をつなげるための多様なアクセス環境の整備、2）社会的困難者をつながり続けるための多様なサポート体制づくり、3）社会的困難者と地域をつなげるために実行団体が活動する地域の地域自治組織や行政など関係組織との協働のしくみの構築を試みる。」という活動を支援する。これらの活動により、地域における複雑化した社会課題を解決するために人と人、人と資金等をつなぎ社会関係資本を拡張し重層化する。結果、住民自治組織のベースのもと地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超え、ヒト・モノ・情報・志金をつなげて、社会的困難者をはじめとした住民一人ひとりの暮らしを支える状態になり、誰もが他人のことを自分ごとに思い支え合える循環型全世代型地域共生社会の実現を目指す。また、このコンソーシアムにより、市域レベルのローカルアクションの知の構造化を図る。

- ・公募事業名 社会的困難者を支えるローカルアクション
- ・実行団体公募期間 2021 年 11 月 29 日から 2022 年 1 月 31 日まで
- ・採択団体数 3 団体（申請団体数：6 団体）
- ・事業実施期間 2022 年 4 月より 2025 年 2 月まで（3 ヶ年）

### ○実行団体の決定

実行団体の公募を 11 月 29 日から 1 月 31 日まで行い、6 団体の応募があった。2 月 24 日に審査会を実施し、3 団体を選考。3 月 7 日の理事会にて内定を決定した。採択団体は事業計画、資金計画、評価計画のブラッシュアップを実施した上で、令和 4 年 4 月に当財団と資金提供契約を締結した。

- ・審査会 令和 4 年 2 月 24 日（木）13：00～  
アスモ 2F 大会議室
- ・選考委員 山城清二（富山大学付属病院総合診療部教授）\*委員長  
森山奈美（株式会社御祓川代表取締役社長）  
渡邊美和子（砺波人権擁護委員協議会南砺地区会長）  
藤田敬人（株）富山銀行ソリューション営業部ソーシャル・ソリューション室企画役補佐）  
川森純一（南砺市総合政策部長）

### ・採択団体の概要

実行団体名	よってカフェ（井波地域）	助成額/総事業費	20,532,000 円 / 25,877,400 円
事業名	生きづらさを抱える人も幸せになれる地域の居場所づくり		
事業概要	【発達障がいやグレーゾーンを含む子どもたちだけでなく普通の子どもの保護者も気軽に集うことができる身近な居場所】 ・行政でも病院でも学校でもない多機能空間づくり。（相談窓口） ・関係団体と連携し、障がいの有無によらず認め合い、刺激し合い、共生していく多様性を抱えた地域社会モデルを発信。		

実行団体名	(一社) さざんくろす (城端地域)	助成額/総事業費	15,020,300 円	/	19,453,800 円
事業名	色々な障がいを知って繋がる場所づくり				
事業概要	<b>【障がい者就労継続支援事業所の新規事業】</b> 障がい者、障がいと接点となる場づくり (カフェ) ・市等の関係機関、支援制度に繋ぐことができる身近な地域の相談窓口。 ・障がい等の有無に関係なく一人の住民として、地域と繋がり、楽しく、自由に表現・能力を発揮できる地域をつくる。				

実行団体名	(農) 大鋸屋宮農組合 (城端地域)	助成額/総事業費	14,802,400 円	/	18,445,000 円
事業名	中山間地の地域コミュニティーを維持し、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指す。				
事業概要	・後継者がいない高齢農業者が安心して先祖伝来の田畑を任せられる環境。 ・新規就農者(若者・移住者・女性等)へ研修を行い生活的自立を支える。 ・集落営農組織が経営の安定や人材育成により持続可能性を高める。				

・助成金合計額 48,697,700 円

(内訳：休眠預金 47,697,700 円、南砺幸せ未来基金 1,500,000 円)

○プログラムオフィサー

休眠預金等活用事業の助成には、プログラムオフィサーが伴走支援を行う。

当財団のプログラムオフィサーは南眞司 (2020 年度 2 団体、2021 年度 1 団体)、能登貴史 (2020 年度 2 団体)、吉野玄暉 (2021 年度 2 団体) が担当し、事業終了まで伴走支援を実施する。

## II 運営に関する実績

### 1. 寄付金の状況

一般寄付 10 件、825,852 円  
 サポーター会員年会費 4 件、400,000 円

### 2. 会議状況

#### (1) 業務執行理事会

会議名	日時	内容
第 1 回 業務執行理事会	5 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会、評議員会の開催について</li> <li>・令和 2 年度事業報告 (案) 及び収支決算書 (案) について</li> <li>・2021 年度休眠預金の応募について</li> <li>・役員の変更について</li> <li>・事務局長について</li> <li>・会計ソフト導入について</li> <li>・頑張る人・地域応援事業について</li> </ul>

第2回 業務執行理事会	10月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度休眠預金事業について</li> <li>・電子地域通貨について</li> <li>・頑張る人・地域応援事業の選考委員会について</li> <li>・日本財団「こども第三の居場所」について</li> <li>・サポーター会員規約について</li> <li>・寄付部会について</li> <li>・遺贈寄付サポートについて</li> </ul>
第3回 業務執行理事会	11月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張る人・地域応援事業審査報告について</li> <li>・2021年度休眠預金事業について</li> <li>・2022年度役員について</li> <li>・5ヵ年ロードマップと今後の方向性について</li> <li>・2022年度経営計画について</li> </ul>
第4回 業務執行理事会	12月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度休眠預金事業の進捗について</li> <li>・日本財団「こども第三の居場所」進捗について</li> <li>・レガシーギフト協会加盟団体への申請について</li> <li>・新ロゴマークについて</li> <li>・採用について</li> <li>・事業活動報告会について</li> <li>・協働のまちづくり支援センターの在り方について</li> </ul>

(2) 理事会

会議名	日時	内容
第1回理事会	6月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度事業報告について</li> <li>・令和2年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について</li> <li>・補欠理事の選任について</li> <li>・重要な使用人の選任について</li> <li>・評議員会の開催及び目的事項の決定について</li> </ul>
第2回理事会	8月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回頑張る人・地域応援事業の結果について</li> <li>・2021年度休眠預金事業について</li> <li>・地域通貨「土徳コインプロジェクト」について</li> <li>・災害支援金について</li> </ul>
第3回理事会	9月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度休眠預金事業の結果について</li> <li>・サポーター会員規約について</li> <li>・地域通貨「土徳コインプロジェクト」について</li> <li>・遺贈について</li> <li>・情報発信・広報について</li> <li>・南砺100年の森基金について</li> </ul>

第4回理事会	1月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター会員制度について</li> <li>・ロゴマークについて</li> <li>・遺贈について</li> </ul>
第5回理事会	3月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休眠預金等活用助成事業の実行団体採択の承認について</li> <li>・令和4年度事業計画（案）の承認について</li> <li>・令和4年度収支予算（案）の承認について</li> <li>・令和4年度役員改正案について</li> </ul>

(3) 評議員会

会議名	日時	内容
第1回評議員会 （書面決議）	6月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度事業報告について</li> <li>令和2年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について</li> <li>補欠理事の選任について</li> </ul>

(4) 監査の実施

令和4年5月16日、監事（2名）が令和3年度の監査を実施し監査報告書を作成した。

（参考記載）事務局会議（\*定款に定めはないが、業務執行理事会の議題の整理・調整のため実施したもの）

年度内に46回の事務局会議を実施した。

3. 寄付者名簿作成

令和2年度に引き続き、寄付者の名簿を整備した。

4. 受託事業

南砺市より資金循環に資する取り組みを進める目的の業務委託を受託している。

1 地域内資金循環システム構築事業

契約額:880,000円

期間:令和3年4月1日から令和4年3月31日

内容:地域内の経済循環を促進し域内消費を高める手段として「電子地域通貨」の調査研究を実施。また多様化する社会課題解決の方策の一つとしてのソーシャルインパクトボンドについても調査を実施している。電子地域通貨は実装に向けて協議会に今後参画する予定としており、地域共生社会と循環型社会の形成に寄与すべく行政ほか関係各所と連携しながら推進していく。

2 地域伴走支援体制強化事業

契約額:4,312,000円

期間:令和3年7月1日から令和4年3月31日

内容:多様化し複雑化している社会課題解決への取り組みを実施することを目的に受託。具体的には、弊財団が課題解決能力を高めるために人材育成を実施し、地域内の活動の伴走支援を行えるよう体制構築を進めた。課題の収集整理、分析を行う中で打ち手となる助成プログラムの検討や助成した団体または相談案件について伴走支援を実施している



5. 他機関等の連携

特に、以下の団体と連携し事業を実施した。

**【連携団体】**

- ・南砺市  
事業の受託、事務局業務
- ・（一社）なんと未来支援センター  
地域課題解決に向けた情報共有と連携
- ・公益財団法人東近江三方よし基金、公益財団法人うんなんコミュニティ財団  
休眠預金事業の資金分配団体としてコンソーシアムを構成
  
- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）  
休眠預金事業の指定活用団体